ロッキー通信 No. 3

「プライオン　思いを力に！」

学校教育目標：「豊かに育つ生徒」
～「挑戦」と「創造」～
校　　訓：「求学・親和・創造」　　R7.4.16(水)発行　文責　校長　六山　和弘

令和７年度「大村市立西大村中学校　学校経営方針」を紹介します

1　教育方針

　人間尊重の精神を基本とし、教育基本法及び長崎県教育方針、大村市教育方針に則り、学校教育目標の具現化及び努力目標の達成を目指す。生徒・教職員・保護者・地域が一体となり、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かであり、かつ生きる力を備えた生徒を育成する。
　教育は子どもたちのためにあることを深く胸に刻み、「生徒ファーストを基本として、生徒一人一人を大切にする教育」を推進する。そのためには、職員一人一人が、使命感に徹し、深い教育愛と豊かな指導力を身に付け、生徒・保護者・地域から信頼される教育者を目指すことに最善を尽くす。
　また、保護者や地域と連携・協働することを強く意識しながら、特色ある社会に開かれた学校づくりを推進する。

2　学校教育目標、育成したい資質・能力

【学校教育目標】

「豊かに育つ生徒」～「挑戦」と「創造」～

【育成したい資質・能力】

【知識・技能の習得】＝ 明朗な人

基礎的な知識及び技能を習得している
心身を鍛え、礼儀正しいあいさつができる

【思考力・判断力・表現力の育成】＝ 期待される人

思考力・判断力・表現力を身に付けている
自分を律して決まりを守り、他者に優しくできる

【学びに向かう力・人間性の涵養】＝ 感謝できる人

自分の夢や目標に向かって、主体的に学習に取り組み
最後まで粘り強く努力し、他者に感謝することができる

3　テーマと各重点努力目標

【テーマ】

「キャリア教育とふるさと教育の充実」（「生徒ファースト」を根底に据えて）

【各重点努力目標】

（１）明朗な人の育成のために

①あいさつの徹底に努めます
・爽やかなあいさつを意識させ、凡事徹底、率先垂範して取り組みます
《あいさつの意義》
ア．信頼関係を築く第一歩　　イ．コミュニケーションの始まり
ウ．相手への尊重を示す　　エ．良好な関係づくり
オ．自分自身の印象を高める　　オ．自分の心も前向きにする

②個に応じた指導、丁寧な対応に努めます
・「自己有用感」を育む指導や支援
・学校課題である「不登校問題」に本気で取り組みます
・生徒も教師も「助けて」が言える環境づくり、孤立しない・させない居場所づくりに注力します

③「ありがとう」を届け合う活動を推進します

z

（２）期待される人の育成のために
①「西中授業づくりスタンダード」の推進と充実に努めます
②中央小学校との授業連携の推進と充実に努めます
③「AIドリル（eライブラリ）」を積極的に活用します
④一人一台端末を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実に努めます
⑤各行事と生徒会活動の活性化を支援します
・失敗も経験と捉え、主体的に動かし、本気の取組となるよう支援します
⑥ガイドラインを遵守した部活動の運営に努めます
・R８から実施される、土日の地域移行に向けて、しっかりと準備していきます

（３）感謝できる人の育成のために
①開かれた学校・地域とともにある学校づくりを推進します
・毎月、１５日を「学校へ行こう！」の日として学校開放を行います
（15日が土曜日の場合は、前日の金曜日。15日が日曜日の場合は、翌月曜日。）
ア．授業参観日とします。
イ．PTAと連携して、「おとなの学び教室」を開催します
②地域人材・資源を生かした「総合的な学習の時間」の実施に努めます
・１年生・・・「地域を知る」をテーマに、「夢授業」の実施を柱に
・２年生・・・「地域の学ぶ」をテーマに、「地域ウォークラリー」を柱に
・３年生・・・「地域に還す」をテーマに、「大村の偉人等の劇」を柱に
③コミュニティスクールの推進に努めます

４　令和７年度の合言葉

「プライオン　思いを力に！」
※「プライオン」とは、以前の本校スローガン「西中プライド」のプライド（誇り）とかつて名をはせた「ライオンキング」からのライオン（挑戦）を組み合わせた造語。これまでの伝統を尊重し、その思いをしっかりと受け継ぎながら、新しい時代を創造していこうという思いを込めました。

令和2年3月に本校を卒業した菅根　万都雛(すがね　まどな)さんが制作した、本校のマスコットキャラクター「プライオン」です。西中生としてのプライドとミュージカル「ライオンキング」のライオン。から命名されました。
メガネには、校章の「w」が使われています。

５　教師集団の柱、ハイブリッド担任制について

（１）学級担任のハイブリッド化を推進します
①学級担任の呼び方を学級担当とします
②各学年単位で、学年の実情に応じて固定時期やローテション時期を定めて実施します

※具体的には、下記の例示をイメージしながら
固定時期には、学級担当が主に、ローテーション時期には、学年担当がチームとして各教育活動を行っていこうという取組です。
（例）
ア：学級担当が主として行う業務
（例）学級事務（学籍、通知表作成など）
イ：学年担当が交替しながら行う業務
（例）朝の会、帰りの会、給食指導、学級活動、道徳の授業、各種行事など
ウ：学級担当と学年担当がチームで行う業務
（例）生徒指導、教育相談など

※ハイブリッド担任制で期待される効果
【生徒・保護者にとって】
①さまざまな目で学級の一人一人の生徒を見るため、変化に気づく機会が増える
②生徒・保護者が多くの先生方と人間関係を築く機会が増える
③教師が出張等で不在であっても、基本的な担任業務に支障がない
④教育相談等がチームで日常的にできるため、常に安心・安全な教育環境が提供できる
⑤保護者からの相談も複数で受けることができ、深刻化を防ぐことができる
⑥学習指導（授業）が充実し、学習内容の定着や向上を図ることができる

以上のことを、今年度は先生方と一緒に学校全体や各学年の状況等を見極めながら、試行錯誤しながら進めていきたいと考えています。他にも大きな変更等がありますので、次号にてお知らせします。どうぞ、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、生徒の皆さんへ
学校は楽しいところ！　知識や技能等を身に付けるところ！　自分を鍛えるところ！
その主役は　みなさん　一人一人です！　みなさんの頑張りを全力で応援します！